



[医療法人溪仁会 西円山病院 広報誌]

# にしまるやま通信

NISHIMAYAMA TSUSHIN NISHIMAYAMA TSUSHIN NISHIMAYAMA TSUSHIN NISHIMAYAMA TSUSHIN

NO.53 2008年  
9、10月号



## 病院祭

9月15日秋晴れの中、「病院祭」が行われました。午前のセレモニーでは、札幌民謡連盟隆声会による民謡の披露があり、三味線、尺八や太鼓演奏なども交えとても迫力のある演奏をしていただきました。午後のセレモニーでは患者様による詩吟発表、六花風靡Jrの皆様によるかわいい子どもよさこい、職員の素敵なピアノの弾き語りにより会場が盛り上がりました。また、屋上では焼き鳥や焼きそば、ゆでとうきびなどの屋台を開催し大盛況でした。

- 病院祭 ● リハビリ特集Vol.3 ● 夏祭り ● 患者家族ボランティア合同
- エコニュース ● ロビーコンサート ● にこにこコラム ● 編集後記

## \* \* 西円山病院のご案内 \* \*

- 診療科目 内科、神経内科、リハビリテーション科、循環器科、歯科
- 病床数 875床(障害者施設等入院病棟、医療療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、介護療養型医療施設)

## 当院回復期リハビリテーション病棟での 取り組みについて

作業療法科  
科長 久保 進也

以前に回復期リハビリテーション病棟について簡単に紹介させていただきました。今回は実際の取り組みについてお話しさせていただきたいと思います。一般に回復期リハビリテーション病棟にてリハビリの効果を最大限に発揮させるためには、大きく2つあると言われています。

1つめは、当然ですがリハビリスタッフとリハビリを行うことです。当院回復期リハビリ病棟では、22名の専従リハビリスタッフを配置し、充実した体制のもと身体の機能回復や日常生活動作に重点を置いたリハビリを提供しています。

入院時に主治医とリハビリの内容や頻度を考え、毎日必要と思われる患者様に対しては365日を通じてリハビリを行っています。(写真1)また退院後からも安心してご自宅で生活・療養が送れるよう患者様の回復状況に応じてご自宅に伺い、退院後の生活を想定した環境調整や住宅改修の助言等も行っています。

2つめは、全職種・スタッフが一人の患者様の目標を共有しあうことです。「協業≒顔のみえる関係≒チーム」体制を作っていくことが、最大のリハビリ効果を出すと言われています。主治医やリハビリスタッフはもちろんのこと、看護師・ケアワーカー・医療ソーシャルワーカー・管理栄養士等、沢山の「その道のプロ」と言われるスタッフが「チーム」を組んで一人の患者さんの方向性を探りながら回復のお手伝いをさせて頂いています。週1~2回開催される「カンファレンス」と言われる話し合いの中で目標を明確化し、統一した関わりが出来るようにしていきます。(写真2)また、さまざまな職種が集まり合同での勉強会等を開催し、リハ看護やケアの方法の技術習得を通じて質の向上を図るよう努力しています。(写真3)当院の回復期リハビリ病棟は、今年10月より1病棟増やし計89床で新たなスタートを切りました。患者様、ご家族様のご期待に添えられるようスタッフ一丸となって、地域から選ばれるような病院・回復期リハビリ病棟となれるよう取り組んでいければと考えてます。



写真1:リハビリの実際

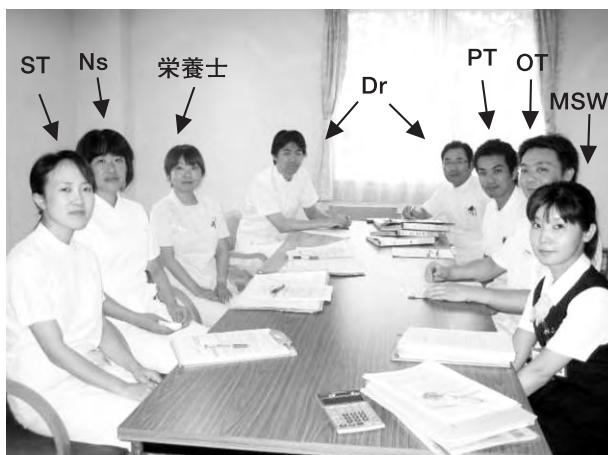


写真2:カンファレンスの一場面



写真3:PTによる介助法指導

# 夏祭り



8月8日に「夏祭り」が行われました。晴天の中、太鼓に合わせてボランティアを中心に患者様やご家族様も楽しそうに盆踊りに参加していました。当院に併設されているピッコロ保育園の子どもたちも輪に加わって、大変盛り上がりました。

屋台コーナーではかき氷や綿あめ、杏仁豆腐、ジュースなどを飲食したり、ゲームコーナーでは輪投げ、ボーリングをして景品をもらったり、ヨーヨー釣りをする姿も見受けられ、お祭りを存分に楽しんでいました。



## 患者家族・ボランティア合同シンポジウム

9月4日に「患者家族・ボランティア合同シンポジウム」が開催されました。残暑の中、今回は初の試みである患者家族とボランティアの合同という形で、合わせて70名近くの方々に参加いただきました。

ボランティアグループ銀の舟の神田副代表よりボランティアの活動紹介と公開シンポジウム



「病院はどうなったの？ 私たちはどうしたら・・・。」と題して、急性期医療～回復期リハビリ～慢性期～在宅の現状等についてスライドを使っての説明と職員の実演の演技で展開しました。参加者からの貴重なご意見やご質問もいただき、学ぶことの多いシンポジウムとなりました。



## 地球温暖化 ～温度1度で変わってしまう生態系～

気温が1度違うと、距離が100 km違うそうです。もし、気温が1度上がったとしたら、緯度が100 km下がったのと同じなのです。ですから、東京は100年で5度気温が上がっていますので、今の東京の温度は100年前の鹿児島島の南端と同じ気温なのです。人間にとっての気温の1度や2度程度、上がったたり下がったりしても大して生活などに困りもしませんし大変でもありません。しかし、植物やその他の生物にとって、1度の違いというのはとても重要なものなのです。ちょっと考えて見ると、私たちの住んでいる地域から100 kmほど離れても気候が全く同じだと思いませんか？また、気温が上がれば今までは生息していなかった生物が現れるだけでなく、病原菌も同時に現れるといえます。気温の変化がもし山に及んだ場合には、1度違えば高度は100 mも違います。つまりは、2000 mで育っていた高山植物が、気温が3度上がってしまった場合に、2300 mもの高度があるところでないとは育たないということです。これは完全に、地域の生態系が変わってしまいますね。

## ロビンソンコンサート

### 【8月 ハワイアンコンサート】



毎月恒例のコンサート、今月は夏にちなんでフラダンス「ナーレイヒバ」の皆様にお越しいただきました。患者様、ご家族様楽しんでいただく為に飾り付けにも力が入りました。主宰者の方は伝統を守りながらも常に新しいアイデアを取り入れた優雅で洗練されたフラスタイルを伝えているそうです。少しの時間でしたが本格的な踊りに魅了され、異国の気分を味わう素敵な時間を過ごすことができました。

## ここにコラム

8月23日、今年で5回目となる院内ソフトボール大会が開かれました。総勢13チームが参加し、業務終了後に練習をしたり、ユニホームを新調したりと、各チームとも大会前からボルテージがアゲアゲ↑でした。しかし、普段の運動不足から、練習中に足を攣るなど「本当に試合に臨めるのか??」と不安な一面もありました。部署内で結成する「純血チーム」と職種間の垣根を越え、混合となる「多民族チーム」、交流と団結を図ることのできるよい機会でした。やはりソフトボールも医療も原点は「チーム」であることを再認識したのでした。ところで我が医療福祉課の結果は……?? 来年こそ栄冠を!!



## 編集後記

早いもので、もう秋がやってきました。当院の窓から見える木々も、これから紅葉してくるのが楽しみです。秋といえば、食欲の秋、スポーツの秋、秋の夜長に読書を楽しむのもいいですね。みなさんの今年の秋のテーマは何でしょうか？朝晩は冷え込みが厳しくなってきましたので、風邪には十分気をつけてください。(M.T)



すべての  
お問い合わせは

郵便

〒064-8557  
札幌市中央区円山西町4丁目7-25  
西円山病院 医療福祉課内  
広報誌「にしまるやま通信」編集事務局

お気軽にお問い合わせ下さい!

電話 (011) 644-1380  
FAX (011) 642-4347